

「行き倒れ」に関する国際的比較地域史研究 —移動する弱者の社会的救済・行政的対応の分析—

公益社団法人部落問題研究所では2015～17年の3年間、科学研究補助費〈基盤研究(B)、研究代表者・藤本清二郎〉の交付を受けて標記テーマの共同研究を進めてきました。本研究は、これまで進めてきた日本近世の身分制、近現代における部落問題の歴史的研究を、その基盤、あるいは背景として存在した日本社会における貧困・救済・福祉や人々の移動という幅広い視点から捉えてみようという試みとして進めてきたものです。

本研究では、各国・各地域に広範に見られる「行き倒れ」という社会現象を分析対象＝分析視角として、近世・近現代の日本社会で生じた諸現象の夫々の時点における特質を捉え、それを継続・変化の視点で把握するとともに、北東アジア（清代中国・植民地期朝鮮）の歴史的展開と比較することによって、その特質を把握するという方法を追究しました。同時に、近代イギリスの救貧体制との比較により、日本・北東アジア・イギリスという世界史的規模での比較考察を試みました。

このような視角・方法で進めてきた共同研究の成果報告会を、下記の要領で開催します。年度末の御多忙の中ですが、ご参加いただきますようご案内申し上げます。

《記》

日時 2018年3月17日(土) 午前10時～午後4時30分〔部分参加可・出入自由〕

会場 機関紙会館5階会議室（日本史研究会事務所のある建物です）
地下鉄「烏丸丸太町」下車西へ徒歩5分
京都日赤病院東側（京都市上京区 春帯町350 Tel. 075-231-3048）

報告と日程

10:00 開会挨拶 プロジェクト代表者 藤本清二郎
研究経過報告 西尾泰広（部落問題研究所）

10時10分～ 第一部 17～19世紀の日本の「行き倒れ」と身分制

○藤本清二郎	（部落問題研究所）	近世日本の行き倒れ—旅人と非人、その境界—	
○沢山美果子	（岡山大学）	松江藩領の捨て子と子連れ行き倒れ人	
町田 哲	（鳴門教育大学）	遍路の行き倒れからみる民衆世界	レジュメ発表
塚田 孝	（大阪市立大学）	都市大坂の非人と行き倒れ	
森下 徹	（山口大学）	萩城下の勧進について	
○茂木 陽一	（三重短期大学）	近世三重県諸藩領における棄児と行倒人保護	
○J. ポーター	（東京外国語大学）	近世身分制の解体と貧民救済＝統制	

12時50分～ 第二部 20世紀の日本の医療・救護・相互扶助と「行き倒れ」

○竹永 三男	（部落問題研究所）	近代日本の「行き倒れ」の歴史的研究の成果と課題
○櫻澤 誠	（大阪教育大学）	沖縄出身者の「本土」への移動と相互扶助
○廣川 和花	（専修大学）	近代日本の地域医療のなかの病者と行き倒れ
○飯田 直樹	（大阪歴史博物館）	大阪府方面委員制度と行き倒れ
○大杉 由香	（大東文化大学）	戦間期大都市における乳児・児童の生存をめぐる問題 —大阪・東京を事例に—

小休憩

14時40分～ 第三部 イギリス・東北アジアの福祉・救護と「行き倒れ」

○小室 輝久	（明治大学）	イギリスにおける行き倒れ
○村上 正和	（新潟大学）	北京育嬰堂における行き倒れへの対応
○金津 日出美	（立命館大学）	植民地朝鮮における社会事業と「行旅病死者」
○鈴木 忠義	（長野大学）	社会福祉学からみた行旅死亡人

全体にわたる質疑応答
閉会

主催・連絡先 公益社団法人部落問題研究所 〒606-8691 京都市左京区高野西開町34-11
mail: burakken@smile.ocn.ne.jp Tel. 075-721-6108 Fax: 075-701-2723
後援 大阪歴史科学協議会・日本史研究会